

安心して暮らせる「富山」

わたしたちの問いと未来へのつながり

藤井夏花 串田光治郎 高見旺文武

専門ゼミ（工学部 環境・社会基盤工学科 中村ゼミ）

SDGs

2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っている



協働相手

PECとやま・世界共通目標SDGsを達成するため、富山県の市民団体、企業、大学、個人等のメンバーが集まって結成したローカルプラットフォーム。

みんなでミライ



SDGsを学んだうえで私たちが思う持続可能な富山とは？



地方創生の取り組みと課題～南砺市井波地域～ 藤井夏花

【富山県の空家家の現状】空家率:令和5年 14.7% (69,700棟)、過去5年間の変化:空家率1.4ポイント上昇 (9,700棟増加)

【井波地域の空家家の状況】空家率:令和5年 9.2% (156棟)、過去3年間の変化:空家率1.6%減

【井波地域とは?】 富山県南砺市南西部の小さな町 (人口約8,000人)、「日本一の木彫りのまち」として2017年に日本遺産登録

【持続可能な井波を目指して - 「ジソウラボ」の取り組み】

- 2020年発足の一般社団法人。地域の未来を担う人材を育成し、文化継承を目指す団体。木彫り師、建築家、実業家、林業家など多種多様なメンバーで構成
- ジソウラボの活動例
 - 空家家マッチング:使われなくなった空家家をリノベーションし、地域外のパン屋希望者などを誘致
 - 地域活性化:店舗選び・空家家改装のサポート、補助金獲得・宣伝の支援

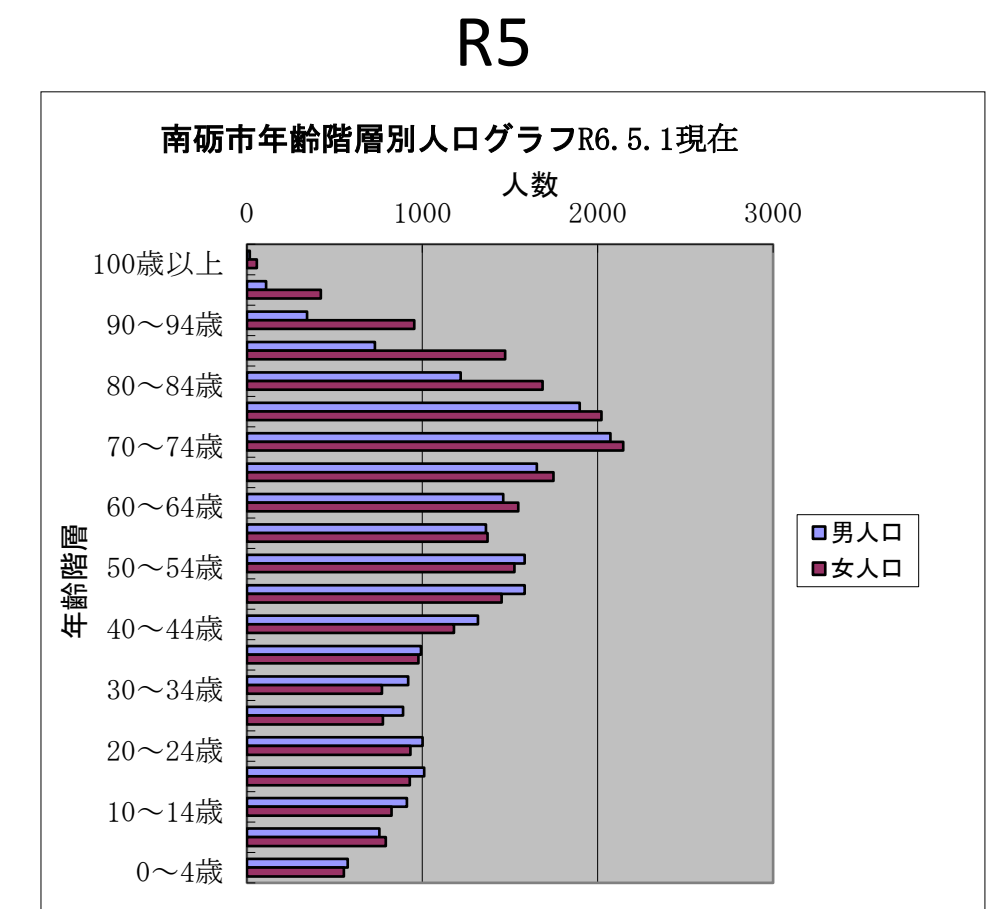
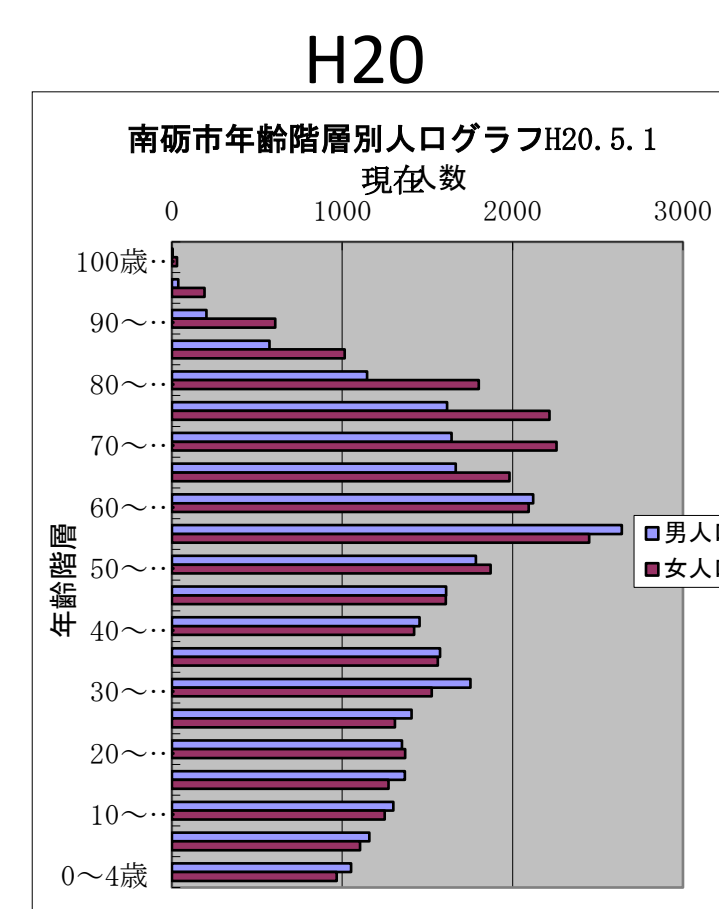
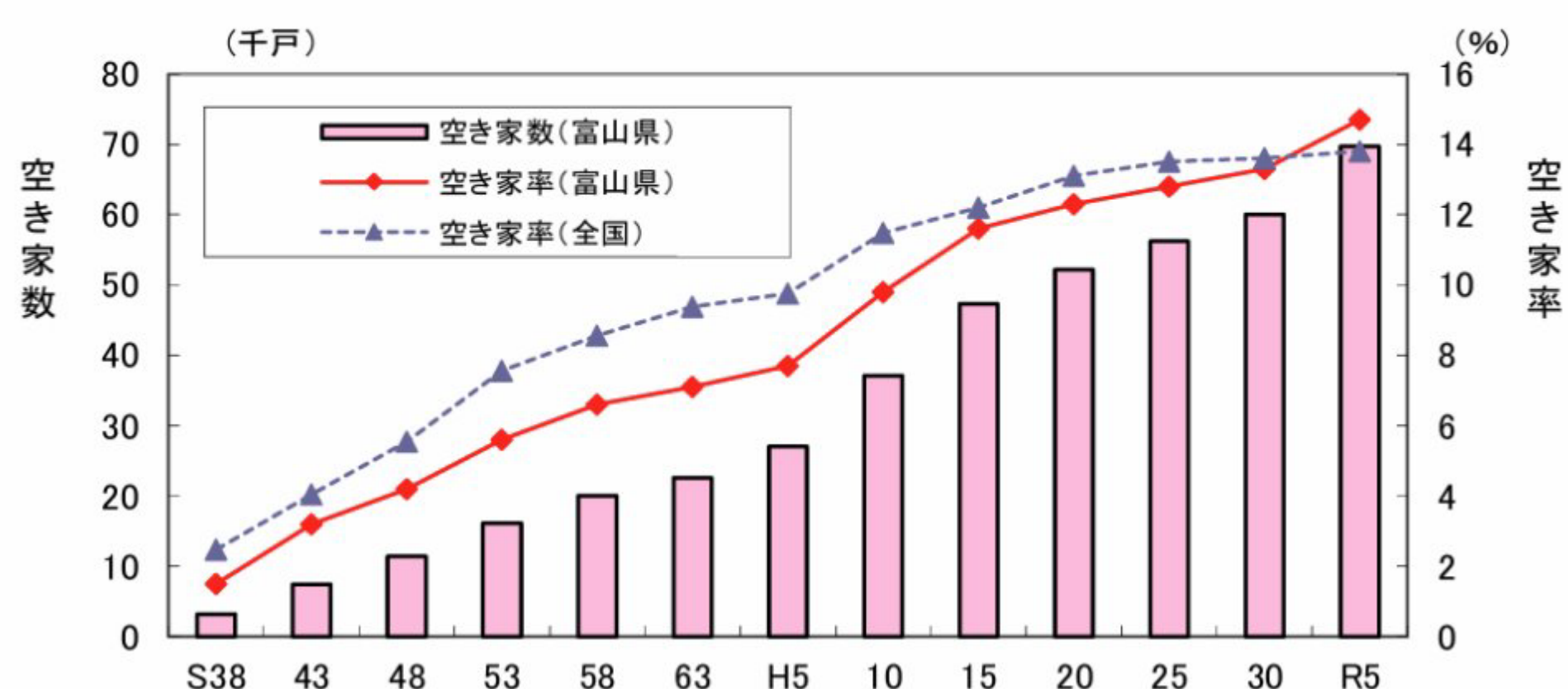
【観光業の課題と可能性】現状:観光バスの短時間滞在 (瑞泉寺見学程度)、課題:リピーターを増やす必要がある

【これからの課題】50~60代の人口減少 → 高齢化の加速と若い世代の流出

【持続可能なまちづくり】

- 地域の未来を守るために、一人ひとりができることから始めましょう
- ジソウラボと一緒に井波の魅力は次世代へ!

図2 空家家数及び空家家率の推移 (昭和38年~令和5年)



関連するSDGsゴール



庄川の洪水対策を強化するにはどうすればよいか？ 串田光治郎

- 【庄川の課題】(1) 洪水対策の課題：洪水調整の多くが**ダム**に依存し、河道整備や平野部での浸水被害軽減策（遊水池、排水施設）の整備が限定的
(2) 浸水被害対策の不足：洪水常襲地帯での**堤防**整備の進捗が遅れている中流域や下流域での堤防強化不足
(3) 流域治水の遅れ：流域全体での洪水リスク管理（**森林**保水力向上、**土地利用**規制など）の進展が遅い
(4) **気候変動**対策の不足；(5) 洪水ピーク時の対応能力不足（短時間**集中豪雨**への対応）
(6) **渇水**リスクへの対応不足（貯水量の適切な配分など未整備）
(7) 河川環境の回復が限定的（ダムによる**生態系分断**の影響が大きい）

- 【庄川が強化すべき**具体策**】(1) 流域治水の推進：**森林**の保水力向上、**雨水貯留**施設整備などで洪水リスク分散
(2) 多重防御の導入：ダムに頼りすぎず、堤防強化や**遊水池**の確保など複数の対策を併用
(3) 集中豪雨対応の強化：洪水時の迅速な**排水機能**や都市部での排水ポンプ施設の整備
(4) 気候変動に適応した水資源管理：渇水時の安定的な水供給システムの構築
(5) 河川環境の修復：ダムの影響を緩和し、**生態系を回復**

【まとめ】洪水対策には、ダム依存から**多様**な治水対策への転換が必要。他地域（大分県の大分川、番匠川）の取り組みを参考に、**流域全体**の**総合**的な治水対策を導入すべき

関連するSDGsゴール



富山県が地震に対応するにはどうしたらよいか？ 高見旺武

■ 2024年1月1日に発生した令和6年能登半島地震で被害が大きかった**珠洲市**の耐震率（1981年に改訂された耐震基準を満たしている家屋の比率）は約51%（2018）であり、耐震基準を満たしていない住宅が全壊するなど被害が大きかった。また火事が広がる、ビルが倒壊するなどした**輪島市**でも45%（2018）にとどまっている。富山県内で被害が大きかった**氷見市**の耐震化率64%も全国平均の87%より低くなっている

=> **高齢化が進んでいて、持ち家率が高いところの耐震化率が上がりにくくなっているのではない**（珠洲市の持ち家率93%（2018）、高齢者率50%（2020））

■ 火事が広がるなどした**輪島市**の場所は古い家が並ぶ場所であった。輪島市の火事が広がった原因として飛び火火災が考えられており地震で剥がれた瓦屋根は火が付きやすく飛んできた火が発火したと考えられる

=> **古い家が並ぶ場所は富山県内にも多くあり富山県でも耐震化を進めていくべきである**

■ **耐震の補助金**として富山県では耐震改修**設計費**の3分の2（補助限度額20万円）、**工事費**の5分の4（補助限度額100万円）を補助する制度や、**耐震診断**を2～6千円（通常5～10万円）で行える制度が存在する

関連するSDGsゴール



取り組みで得た学び



- 井波地域の取り組みは、単なる「空き家対策」ではなく、文化的価値の保護と地域の魅力発信を両立しており、地方創生の理想的な形の一つであると感じた。ジソウラボのような住民主体の活動は、他の地域にも応用可能であり、より多くの地域で展開されるべきだと思った。



- 自然災害は完全に防ぐことはできなくても、複数の対策を組み合わせることでリスクを大幅に低減できると感じた。